

グラフで見る景気概況

【日本経済の景気概況】

景気は回復を続けているが、回復力は弱い。3月の鉱工業生産は前月比 - 0.2%と2か月連続の減少となった。四半期ベースで見ると5期連続の増加となっているが、増加ペースは次第に減速している。製造工業予測指数によると4月は - 0.9%、5月は + 2.1%と一進一退の動きが見込まれている。

2月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は前月比 - 9.6%と3か月ぶりに減少した。6か月ぶりの大きなマイナス幅となったが、1、2月の月平均受注額は10-12月の水準を上回っており、1-3月は、3月が - 10.3%以上の大幅な減少とならなければ前期比プラスとなる。機械受注は緩やかながらも持ち直しの動きが続こう。

個人消費は昨年秋以降、次第に弱含んできている。3月の個人消費関係の統計をみると、消費者マインドの指標と実質大型小売店販売が悪化している。乗用車販売は3月まで好調を維持していたが、4月からの「グリーン税制による減税対象の縮小」を控えて駆け込み需要が発生していた可能性があり、4月には前年比 - 7.0%と減少に転じている。個人消費は今後も力強さを欠く動きが続くと思われる。

住宅投資の基調は依然として弱い。3月の住宅着工戸数は、貸家が堅調だったものの持家と分譲（特にマンション）は低迷が続き、全体で前年比 - 1.9%と5ヶ月連続前年割れとなった。マンションの販売在庫は03年に入り減少に転じているものの、マンション市場が好調であった01年頃に比べると依然として高水準であり、当面、供給抑制圧力が残りそうである。

輸出は足元でやや減速している。中国向けは堅調に推移しており、ユーロ高を背景にEU向けも足元で好調だが、米国向けが自動車を中心に減速している。今後輸出は中国を中心にアジア向けが堅調に推移し前年比増加を維持するが、伸び率は鈍化する見込みである。

物価を見ると、これまでの原油高や景気の回復、さらに供給抑制による需給の引き締まりを背景として石油関連製品や素材などの価格が上昇しており、国内企業物価全体の下落幅が縮小している。

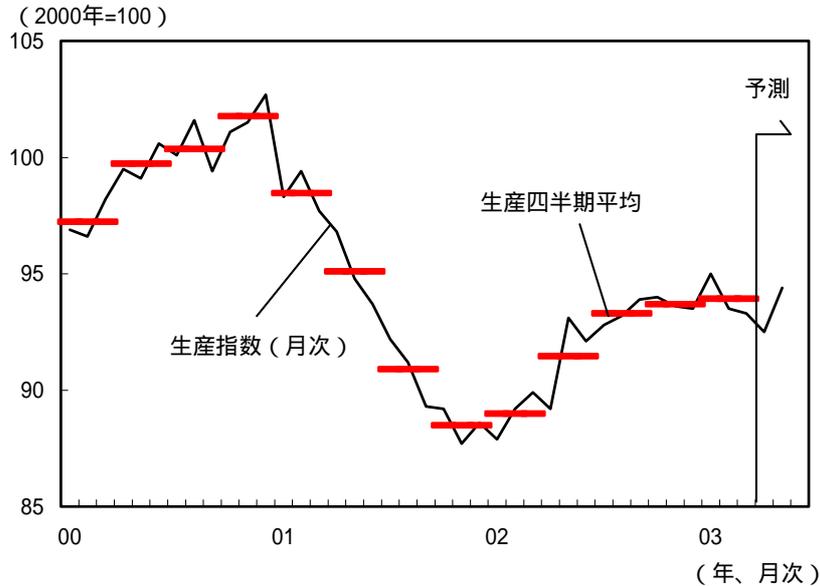


お問い合わせ先：調査部(東京)国内経済班 E-Mail : ikedat@ufji.co.jp

日本の景気概況

1. 生産

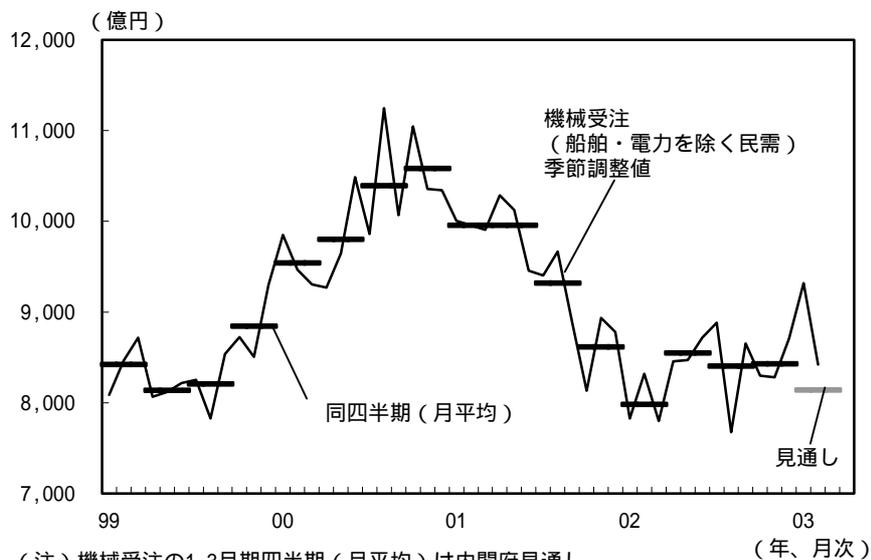
- ~ 3月の鉱工業生産は前月比 - 0.2%と2か月連続の減少となった。四半期ベースで見ると5期連続の増加となっているが、増加ペースは次第に減速している。製造工業予測指数によると4月は - 0.9%、5月は + 2.1%と一進一退の動きが見込まれている。



(資料) 経済産業省「経済産業統計」

2. 設備投資

- ~ 2月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は前月比 - 9.6%と3か月ぶりに減少した。6か月ぶりの大きなマイナス幅となったが、1、2月の月平均受注額は10-12月の水準を上回っており、1-3月は、3月が - 10.3%以上の大幅な減少とならなければ前期比プラスとなる。機械受注は緩やかながらも持ち直しの動きが続こう。

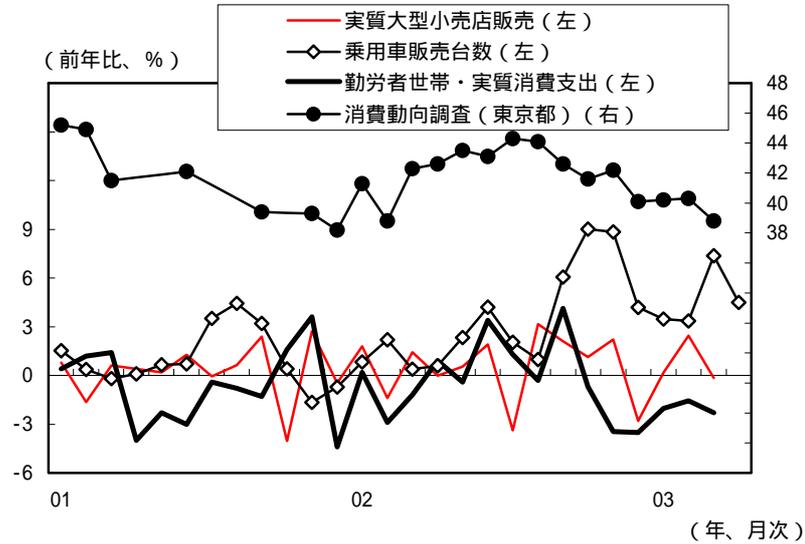


(注) 機械受注の1-3月期四半期(月平均)は内閣府見通し

(資料) 内閣府「機械受注統計」

3. 個人消費

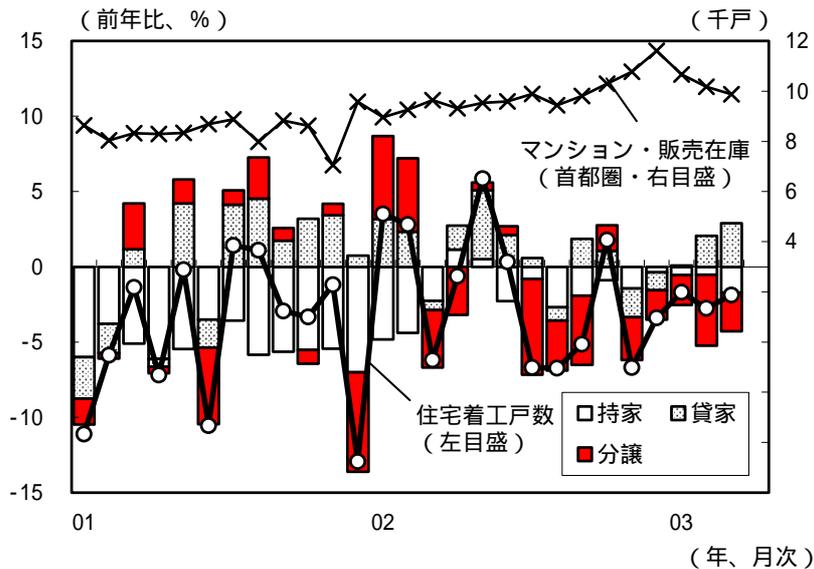
～ 3月の個人消費関係の統計をみると、消費者マインドの指標と実質大型小売店販売が悪化している。乗用車販売は3月まで好調を維持していたが、4月からの「グリーン税制による減税対象の縮小」を控えて駆け込み需要が発生していた可能性があり、4月には前年比 - 7.0%と減少に転じている。個人消費は今後も力強さを欠く動きが続くと思われる。



(注) 乗用車販売 (普通 + 小型 + 軽) は、3ヶ月移動平均値の前年比
 実質小売販売額はCPI(財、除く車)により実質化。
 (資料) 総務省「家計調査報告」、「消費者物価指数月報」
 経済産業省「商業販売統計」、内閣府「月次消費動向調査」
 自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

4. 住宅

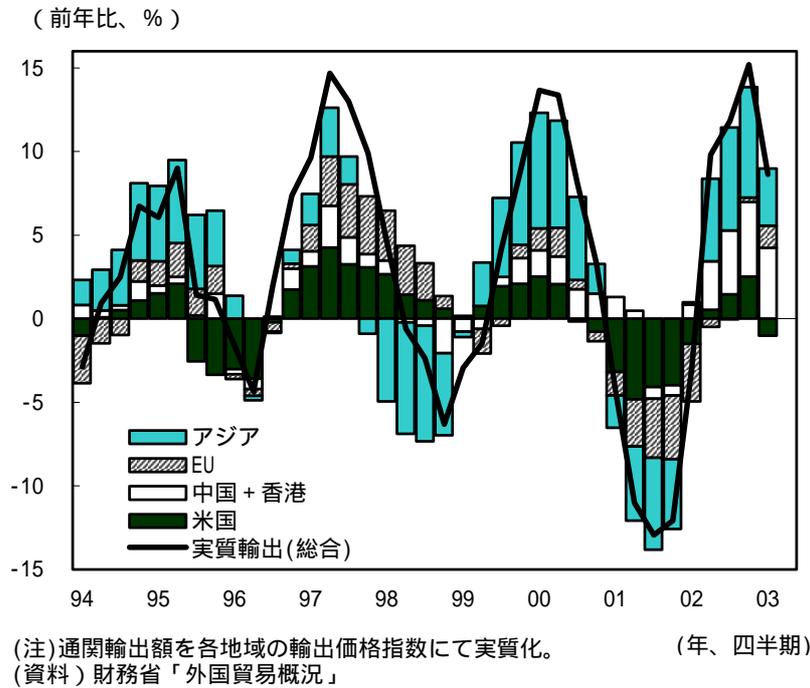
～ 3月の住宅着工戸数は、貸家が堅調だったものの持家と分譲 (特にマンション) は低迷が続 き、全体で前年比 - 1.9%と5ヶ月連続前年割れとなった。マンションの販売在庫は03年に入 り減少に転じているものの、マンション市場が好調であった01年頃に比べると依然として高 水準であり、当面、供給抑制圧力が残りそうである。



(注) マンション・販売在庫 = 月末分譲中戸数 = 完成品在庫 + 仕掛品在庫
 (資料) 国土交通省「建築着工統計」、
 不動産経済研究所「首都圏マンション市場動向」

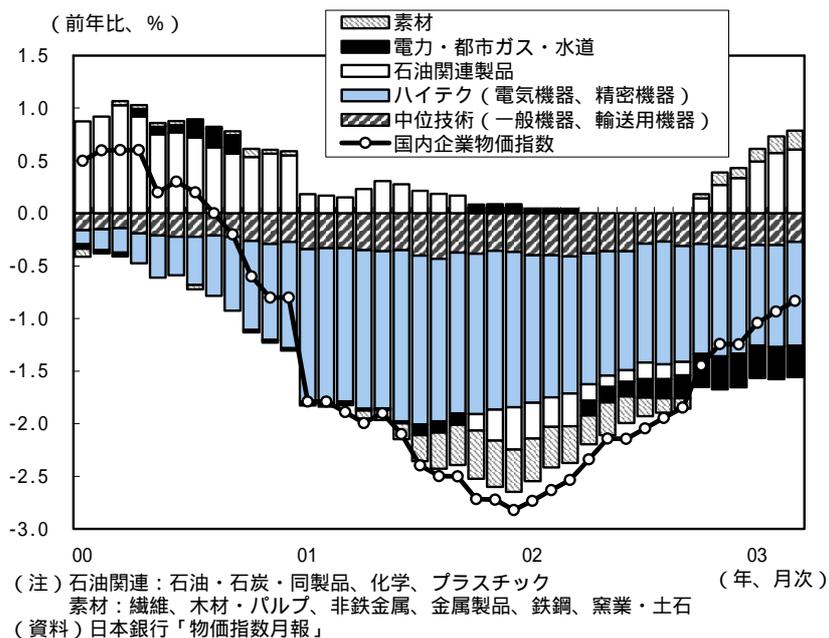
5. 外需

- ～ 輸出は足元でやや減速している。中国向けは堅調に推移しており、ユーロ高を背景にEU向けも足元で好調だが、米国向けが自動車を中心に減速している。今後輸出は中国を中心にアジア向けが堅調に推移し前年比増加を維持するが、伸び率は鈍化する見込み。



6. 物価

- ～ これまでの原油高、景気回復、さらに供給抑制による需給引き締まりを背景に石油関連製品や素材などの価格が上昇し、国内企業物価全体の下落幅が縮小している。



金利・為替動向

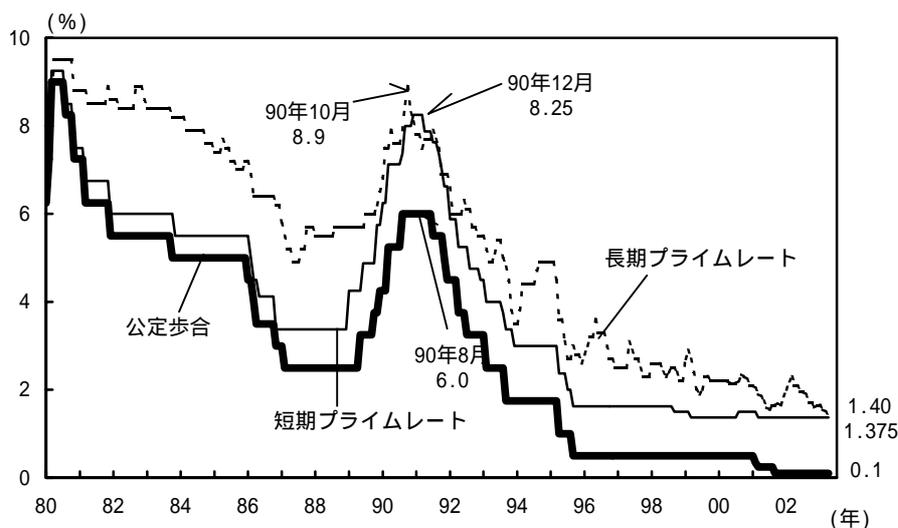
(注)足元の数値は、4月30日現在

長・短期プライムレート、公定歩合は月末値、それ以外は月中平均の数値を使用して作成

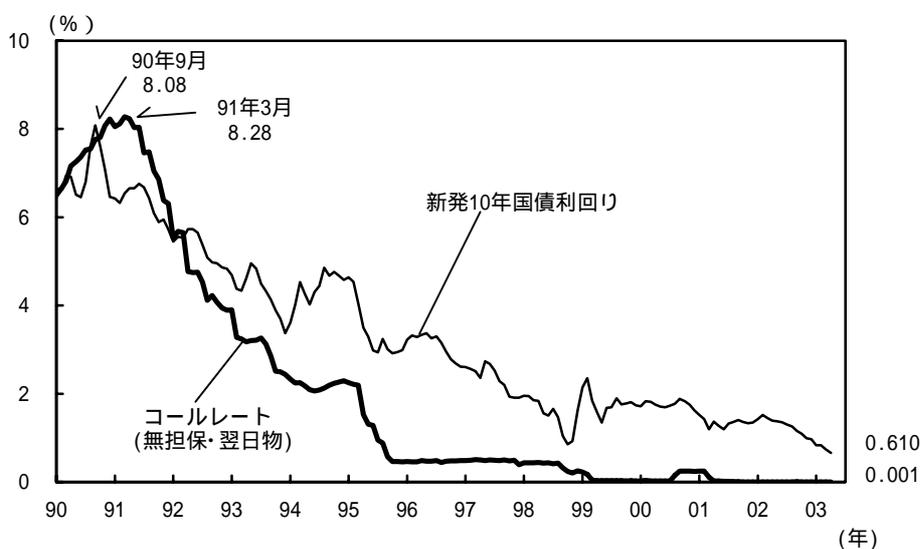
短期プライムレートは、都市銀行が自主的に決定した金利のうち、最も多くの銀行が採用した金利

国内金利

- ～ 日銀は4月30日の金融政策決定会合で、日銀当座預金残高の目標をこれまでの「17～22兆円程度」から、「22～27兆円程度」に引き上げる決定を行った。足元の当座預金残高は、26兆円前後で推移している。長期プライムレートは調達コストとなる債券利回りの低下を受けて、4月10日に1.40%に引き下げられた。

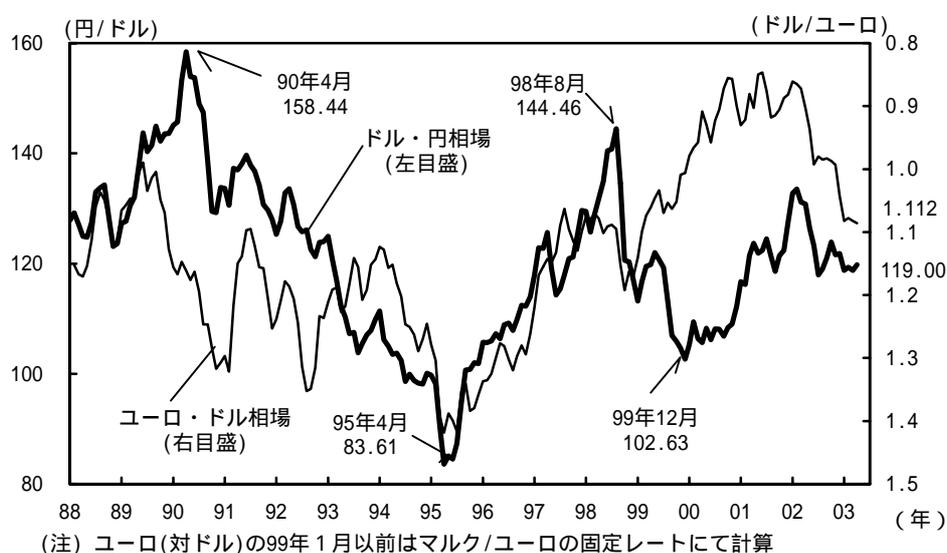


- ～ 無担保コール翌日物金利は、日銀による潤沢な資金供給もあり0.001%近辺で低位安定している。長期金利は、債券市場への資金流入が続いていることから連日低下を続け、足元では0.6%台の低水準で推移している。



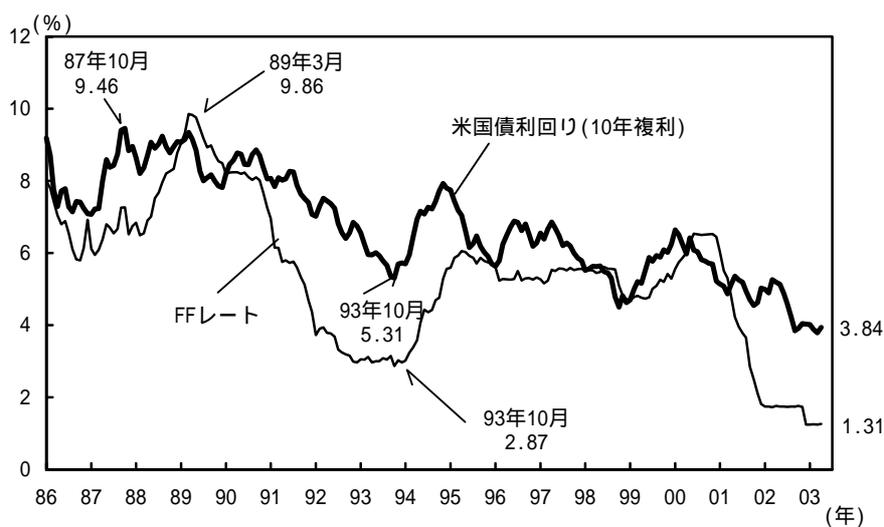
為替相場

～ イラク戦争の短期終結後、ドル・円相場は足元まで、ほぼ1ドル = 120円前後での安定した推移が続いている。



米国金利

～ F F レートは、月中を通じ、誘導目標水準である1.25%前後での推移を続けている。長期金利は、株価が堅調に推移する中で月半ばに一時4%台に上昇したもののその後低下し、足元では3.9%前後で推移している。



本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。